

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
	I 理念に基づく運営			
	1. 理念の共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「のんびり ゆったり そのひとらしく」というわかりやすい文言の理念のもと、常に利用者のペースで生活できる介護を心がけているが、地域密着という点では、まだ弱いと思う。	○	さらに、地域密着型サービスを意識した理念を、具現化していきたい。
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	日々の業務の中で、理念を思い起こしながら、ケアにあたっている。	○	話しかけ方、接し方が、さらに、のんびり、ゆったりした雰囲気を作るように工夫していきたい。「音・光・におい・湿度・職員」すべてが、利用者にとっての環境であることを各自がさらに、深く認識していく。キッチンがリビングに接しているため、食器や器材の音などにも、繊細に気を配っていきたい。
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	年4回発行の「より道通信」、また、今年度から新たに発行している地域に向けての広報誌「より道だより」に理念を毎回掲載している。	○	ホーム内の掲示方法を、家庭的で親しみやすいものにしたいと考案中である。
	2. 地域との支えあい			
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	「より道だより」にも、気軽に立ち寄り寄っていただけるように、ホームの紹介をしている。散歩の際にも、積極的に挨拶をしている。	○	用事がなくても、「気軽に立ち寄り顔をだしてくださる」ところまでは、まだいたっていない。
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老入会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に入っており、現在、持ち回りの係を担当し、毎月の会議にも出席している。	○	入居者も見守り活動に散歩時に参加している。
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	地域包括支援センターと連携をとって、介護で困っているかたの相談窓口として、地域に貢献する体勢をとっている。自治会の集まりで伝えたり、広報誌に載せたりしている。	○	さらに、地域住民が気軽に訪れることの出来る雰囲気をつくっていきたい。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
	3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の外部評価結果を踏まえての改善計画に基づき、年間を通じての目標を立て、一つ一つの課題に積極的に取り組んできた。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	行事や日々のサービスについての報告をし、それに対して参加者、それぞれの立場からの意見をきき、参考にしている。今後も日々のケアの中に、積極的に意見を取り入れていきたい。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	特に相談する課題もなく、行き来する機会を見い出せないでいる。ただし、地域包括支援センターの職員とは運営推進会議時等に行き来しケアの向上を相談している。	○	市町村担当者に相談する機会をもちたい。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	地域福祉権利擁護事業推進会議に出席した。現在、権利擁護と成年後見制度についての法律を、専門的に学んでいる。今のところ必要とする入居者はいないが、必要時には対応できるように準備をすすめていきたい。		
11	○虐待防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止のマニュアルを作成し、意識の向上につとめている。虐待防止委員会を開催予定である。	○	虐待防止委員会は定期的に、開催したい。
	4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際には時間をかけて、利用者のはなしをきき、家族の意見に耳をかたむけている。十分な説明をし、理解・納得していただいている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時には、その都度入居者のご様子を報告し、意見・疑問・要望・苦情がないかたずねている。また、苦情相談窓口や第三者委員のことも説明している。		
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	面会時、メール、電話を利用して、暮らしぶり、健康状態、金銭管理について、担当者や責任者からこまめに報告をしている。		
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時やケアプラン説明時に、意見、不満、苦情がないかをたずねている。また、家族会の開催や運営推進会議で、発言してもらっている。		
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議、物品購入、日々の業務の中でも、職員の意見をきき、検討しチームケアをしている。		
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	固定した業務を遂行する職員とは、別に責任者が柔軟な対応ができるようにしている。		
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	おかげさまで、離職はきわめて少なく、婚姻のため辞めた職員も、生活が落ち着いたので復帰した。		
	5. 人材の育成と支援			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	それぞれの能力や興味に応じたトレーニングを試みており、参加した研修の発表をしてもらう、ひとつのテーマにそって研究することなどをすすめている。	○	現任教育のためのチェックリストを作成中である。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他事業所の研修へ参加して学んでいる。協議会合同の事例検討会では、意見交換し勉強になった。他事業所の実習にも参加し、学んだことを報告している。		
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	体調不良時には、休みを与え、勤務交代などの対応をしている。		
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	研修には積極的に参加をすすめ、その際本人が学びたいことを希望し、配慮している。会議の際に、研修で学んだことの発表をしている。職員の研究したいテーマをもって、仕事に取り組むよう指導している。		
	Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	初回面接で出来るだけ把握するようにつとめている。また、チームとして役職に関係なく気軽に相談できる雰囲気をつくっている		
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	電話や面接で、家族の悩みや希望にじっくり耳を傾け、本人や家族の状況の把握、気持ちをくみとるようにつとめている。さらに、最低月に1回以上の面会をお願いしている。		
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人家族のニーズを把握し、必要な場合は、行政や他事業所に相談する道筋をつくる支援をしている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前の複数回の訪問、入居日に家族に付き添ってもらい、入居後は頻りに面会してもらう。歓迎・紹介の場を設ける。さみしい気持ちにならないよう職員がそばにつく、食事時などは気の合いそうな入居者の近くにすわってもらう。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
	2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居者から、喜びや感動をもらっていると感じる。生きることについて、学ぶことが多い。相互のちからで、当グループホームがあることを痛感する日々である。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族に、支援するがわにも立っていただき、協力をいただいている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	主介護者のみではなく、家族すべてとの関係を把握し、良好な関係が保てるように、協力している。また、家族間の意思の疎通をお願いしている。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	気持ちよく友人知人が訪ねてくれるような雰囲気配慮をしている。行きたい場所・店・寺社に。お連れするようにしている。希望があれば、宿泊の準備もしている。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	みなそれぞれに仲のよい利用者がおありになり、孤立した状況はない。人間関係のいさかいはあるが、大きな問題になることのないように支援している。		
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	サービス契約の切れた家族から、連絡がくることがあり、出来る範囲で相談にのっている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
	Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント 1. 一人ひとりの把握			
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	担当者を中心に、認知症の人のためのケアマネジメントセンター方式を使うなどして、本人の希望や意向をくむ努力をしている。ご家族からの情報も、もらっている。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの記録や、日々の会話のなかで、情報を集めている。面会者があるときは会話に参加して、過去の生活や人間関係を教えてもらうよう、つとめている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	日々の支援のなかで、状態を把握している。職員間で検討し合っている。		
	2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人・家族と話し合い、意見やアイデアを出してもらっている。	○	関係者が一堂に会した協議をもつ、働きかけをしたい。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	職員間では、期間に関係なく、日常的に会議をもっている。本人・家族・とは機会あるごとに話し合い、計画を見直している。また、必要時には主治医にも相談している。		
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアの実践は、個別記録にわかりやすく記載されている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
	3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、馴染み関係を大切にしながら事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医師の判断によって、必要な治療をグループホーム内で行うことがある。	○	看護師・准看護師が2名で対応しているが勤務のローテーションもあるので訪問看護ステーション等と連携を取っていきたい。
	4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	日頃から、民生委員、ボランティア、警察、消防の協力を要請している。また、文化・教育機関とは、訪問したり訪問の受け入れをしている。大学生の卒業研究にも協力した。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話しあい、他のサービスを利用するための支援をしている	地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と連携をとり、必要時には他のサービスを利用できるように対応している。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	地域包括支援センター職員の方に、運営推進会議に参加していただき、入居者の報告をして、意見をいただいている。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人及び家族の希望でかかりつけ医を決めている。かかりつけ医と事業所が良好な関係を築いており、適切な医療を受けている。ご様子に応じて、かかりつけ医以外も受診することも必要と考えており、実施している。		
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	認知症に詳しい医師に、対応の仕方や薬の効能、疾患について相談し助言をもらっている。また、利用者が認知症についての診断治療を受けている。		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	事業所に勤務する看護師が、利用者の日常の健康管理や医療面の支援を行っている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	利用者が入院した際には、必要な情報をいち早く提供している。入院中はまめに面会して状態を確認し、病院関係者からも情報収集をしている。家族と共に病院関係者と退院に向けての相談をし、退院後の生活での注意点等を指導してもらっている。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重症化した場合や終末期について、指針を作成、各家族に説明し、同意を得ている。かかりつけ医から、家族に直接説明していただいたり、看護師を通じて連絡している。		
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	重度のかたに対して、グループホームにて出来ることを検討し主治医の指導の下、実践している。今後の変化についても、主治医と相談してすすめていく態勢である。		
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	住み替え時には、時間をかける、家族の協力を得る、スタッフの一時的な増員をはかるなど、きめ細かい対応をし、本人のダメージを最小限にするよう努力している。		
	IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 1. その人らしい暮らしの支援 (1) 一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	常に、本人を尊重しプライバシーに留意した言葉がけをしているが、引継ぎや話し合いをする場所が入居者の近くなので、話し合いの内容が入居者の耳に入ってしまうようにしている。記録は外部に持ち出さない。処分するときはシュレッダーにかけている。	○	言葉の大切さをスタッフ全員が認識し、日々心がけてさらに、レベルアップしたい。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	『～はいかがですか?』『～はどうでしょう?』などの言葉がけをして、本人の思いや希望を言葉や様子からキャッチして、さらに、本人に決めていただいている。		
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ケアの基本であると考えており、おひとりおひとりのペースを待つこと、見守ることを、スタッフ全員ができるように、指導している。	○	さらに、個別対応をすすめていきたい。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
	(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	希望の理美容店にお連れしている。ご本人の希望の服を選んでもらう、お化粧をする、マニキュアを塗って差し上げる、等のケアは普段から行っている。		
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	それぞれの、得意なこと、したいことを中心に、食事の準備から片づけまで、一緒に行っている。		
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	本人・家族の希望で、毎日出す栄養補助食品がある。希望のかたには、牛乳をとっている。好きなものを食べてもらうようにしている。		
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄のリズムの把握は当然のことであり、失敗やおむつの使用はきわめて少ない。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	一番風呂・しまい湯など、本人の希望をきいて、順番を決めている。また、好きな湯の温度に調整している。本人が好きな、せっけんを使ってもらっている。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	それぞれの利用者が、自由に休息し、昼寝をとることができる環境であり、それができるように、職員がサポートしている。		
	(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	そのひとごとの楽しみ生きがいをみつけて、自由に楽しめる支援をしている。生活力に応じた役割をもってもらい、張りのある生活を送ってもらっている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望する入居者には、本人の能力を考慮して、金銭をもっていただき、外出時などには、本人が支払う場面もつくっている。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ぎずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	教会や喫茶店など、ご本人の希望の場所に出かけられるように支援している。	○	ほとんどのかたが、外出していただけているが、中には、体調の理由から外出の機会のない方もいらっしゃる、今後は、そういったかたの、外出の方法を検討していきたい。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	踊りのリサイタルの鑑賞や、遠出をして水仙の見物に出かけた。		
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年賀状や暑中見舞い家族にを書いていただいている。職員が代筆して手紙を出すこともある。さみしいときに夫や子どもたちに電話したり、子どもの誕生日に電話でお祝いをいうこともある。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	明るく気持ちよく出迎えるように、職員がこころがけている。入居者が好みの場所で面会できるような配慮をしている。茶菓も提供している。		
	(4) 安心と安全を支える支援			
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束について、職員での勉強会を開催し周知徹底し、身体拘束しないケアを目指している。	○	身体拘束ではないのか、日々のケアを振り替える努力をして、広い意味での身体拘束につながらないような努力が常に必要と思われる。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員が常に、入居者が今どこで何をしているか、把握している。外にでたい願望のある場合は、外出をして、気持ちをすっきりしてもらい、話相手になる、気分転換する、などの支援をしている。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	職員が常に、入居者のご様子を見守り、こまめに職員間で、報告している。夜間は1～2時間おきに、居室の見守りをしている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	ご本人の能力に応じて、外用薬(水虫薬、シップ、うがい薬)を本人管理にし使用状況を確認している。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	救急蘇生法の講習を全員が受けている。	○	今年も近日中に講師を招いて、講習を受ける予定である。
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	看護師のホーム長が訓練したり、外部の講師に依頼したり、消防署にある防災体験センターに行ったりしている。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	近隣の交番・消防署・ガソリンスタンド・レストラン・住民にグループホームの概要を説明し理解してもらって協力を約束していただいている。		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	本人の疾患によっておこりうる症状、身体機能上の問題から転倒等のおそれがあることなど、説明している。		
	(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	体調の変化がある場合は注意深く観察し、職員全員に報告し、必要時には受診または、医師に報告し指示をおおぎ対応する。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の情報のファイルを見るなどして、把握している。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	便秘について、理解している。水分補給や体操、繊維質の食事の摂取を心がけている。	○	今後、ファイバーやセンナ茶等の導入を検討してみたい。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	ご本人の能力に応じた形で、口腔ケアをしていただいている。その方に応じた、道具を使用している。	○	今後、歯科医や歯科衛生士の訪問診療を取り入れていきたい。
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量を把握し不足分は、代用食品を利用している。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症防止マニュアルを作成。感染症の研修に参加し、職員会議で防止方法の勉強をしている。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	毎日、まな板・ふきんの消毒、1週間に最低1度は冷蔵庫の清掃をしている。食材は出来るだけその日に使用する。食品サンプルを保存しておく取り組みを実践。		
	2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり			
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関に季節に応じた飾り付けをしている。花を植えて安らげる雰囲気をつくっている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	カーテンやブラインドで光の調整を行い、テレビや音楽などBGMの音量に気を配っている。	○	居間に台所が隣接しており、食事の準備後片付けの音が気になることがある。『生活感』ではなく、騒音になりがちなので、スタッフ全員で気を付けていきたい。見ていないテレビは消して、音楽を流すよう心がけたい。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	いすやソファ等々の工夫をしている。畳の間があり、ホットカーペットを敷く		
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	位牌・宗教のご神体・写真・絵・カレンダー等、自分のなじみのものを配置し、くつろげる雰囲気をつくっている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	換気に気を配っている。空気清浄機を利用している。臭気を消すことができる消毒薬を導入し、トイレやポータブルトイレに、使っている。清掃にも気を配っている。		
	(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	内部は基本的にバリアフリーであり、自由にエレベーターを使用できるようにしている。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	トイレの場所を明記している。居室には、ご自分の表札をかけている。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	建物一階にプランターや植木鉢を置いて、花を育てている。		

番号	項目	取り組みの成果 (該当する箇所に○印をつける)
v サービスの成果に関する項目		
88	○職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	《 ○ 》①ほぼ全ての利用者の 《 》②利用者の2/3くらいの 《 》③利用者の1/3くらいの 《 》④ほとんど掴んでいない
90	○利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	《 ○ 》①毎日ある 《 》②数日に1回程度ある 《 》③たまにある 《 》④ほとんどない
91	○利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	《 ○ 》①ほぼ全ての利用者が 《 》②利用者の2/3くらいが 《 》③利用者の1/3くらいが 《 》④ほとんどいない
92	○利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	《 ○ 》①ほぼ全ての利用者が 《 》②利用者の2/3くらいが 《 》③利用者の1/3くらいが 《 》④ほとんどいない
93	○利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	《 》①ほぼ全ての利用者が 《 ○ 》②利用者の2/3くらいが 《 》③利用者の1/3くらいが 《 》④ほとんどいない
94	○利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	《 ○ 》①ほぼ全ての利用者が 《 》②利用者の2/3くらいが 《 》③利用者の1/3くらいが 《 》④ほとんどいない

番号	項目	取り組みの成果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
96	○利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	《 ○ 》①ほぼ全ての利用者が 《 》②利用者の2/3くらいが 《 》③利用者の1/3くらいが 《 》④ほとんどいない
95	○職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	《 ○ 》①ほぼ全ての家族と 《 》②家族の2/3くらいと 《 》③家族の1/3くらいと 《 》④ほとんどできていない
96	○通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねてきている	《 》①ほぼ毎日のように 《 ○ 》②数日に1回程度 《 》③たまに 《 》④ほとんどない
97	○運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	《 》①大いに増えている 《 ○ 》②少しずつ増えている 《 》③あまり増えていない 《 》④全くいない
98	○職員は、生き生きと働いている	《 ○ 》①ほぼ全ての職員が 《 》②職員の2/3くらいが 《 》③職員の1/3くらいが 《 》④ほとんどいない
99	○職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	《 ○ 》①ほぼ全ての利用者が 《 》②利用者の2/3くらいが 《 》③利用者の1/3くらいが 《 》④ほとんどいない
100	○職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	《 ○ 》①ほぼ全ての家族等が 《 》②家族等の2/3くらいが 《 》③家族等の1/3くらいが 《 》④ほとんどできていない